

(様式4)

令和7年3月17日

富山県教育委員会教育長 殿

富山県立新川みどり野高等学校

校長 田中 悟

令和6年度学校総合評価を別紙(様式5)とともに提出します。

## 令和6年度学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

生徒一人一人の実態を把握し、「わかる授業」の充実、成功体験を積み重ね「自己有用感」を育む活動の充実が、本校の学校計画の根幹である。それを踏まえて、教務部・福祉教養科による学習活動、保健厚生部による学校生活の充実、進路指導部による進路支援、特活部による特別活動の充実の5点を重点課題に絞り、評価を受けた。

重点課題①：生徒の実態に即した適切な受講登録とわかる授業の確立

重点課題②：家庭・福祉への興味・関心を向上させ、家庭・福祉に関する知識・技術の習得を図るとともに、福祉教養科での学びの達成感や充実感を高める

重点課題③：保健厚生委員会活動の活性化による、生徒の環境整備に対する意識向上

重点課題④：生徒が主体的にキャリア教育の向上を目指しながら、目標に向かって実践できる進路指導(支援)体制の構築

重点課題⑤：豊かな人間関係を構築する能力とコミュニケーション能力の育成

重点課題の評価は、①、③がA(達成)、他の②、④、⑤がB(ほぼ達成)であった。取り組んだことに対して、高い評価をいただくとともに、いくつかの課題も指摘され指導・助言をいただいた。

- ① 今後も丁寧な関わりや指導により出席率、単位修得率を上げてほしい。基礎的な学力が不足する生徒のフォローも行ってほしい。
- ② 福祉施設との交流は地域社会と関わる貴重な機会、学校全体としての取組にしてほしい。達成度の評価は、恣意的にならぬよう評価方法の工夫を検討が必要がある。
- ③ 今後も生徒主体の委員会活動を推進し、より生徒の主体的な取組となるよう働きかけを工夫してほしい。
- ④ 進路未定者については、社会との繋がりを持って卒業させてほしい。
- ⑤ 卒業後の社会生活を意識した指導が学校の課題である。指導方法等を工夫してほしい。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

学校評議員からは、学校の取組について、今後の課題を含め評価をいただいた。達成目標・達成度が数値化されていないものについては、より客観的な評価方法を再度検証していく。生徒の指導(支援)全般において、常に卒業後の社会生活を見据え、主体的な進路選択・進路実現ができるよう、学習指導、特別活動等、学校生活の中での様々な活動を関連付けて指導(支援)していく。